

第5回能登町消防団訓練大会において、次の皆さんが表彰を受けました。

石川県知事表彰

銀杯を授与する表彰

井佐光幸（柳田分団・副分団長） 馬場信義（消防団本部・部長）
藤田 満（上町分団・部長） 大古一人（柳田分団・部長）
梅田真人（鶴川分団・班長） 坂口明夫（三波分団・班長）

永年勤続団員の配偶者等に対する感謝状

新出由美子（秋吉分団新出鉄夫分団長の妻）

石川県消防協会長表彰

優良消防団表彰

高倉分団（分団長・坂下芳明 分団員 24 人）
松波分団（分団長・菅原圭一 分団員 26 人）

功労章

坂下芳明（高倉分団・分団長） 柳瀬隆憲（上町分団・分団長）
永山信彦（宇出津第1分団・分団長）

功績章

坂森良伸（白丸分団・分団長） 石渕政信（山田分団・分団長）
細畑芳彦（岩井戸分団・分団長） 宮下彰雄（秋吉分団・副分団長）

勤続功労章

舟元俊朗（白丸分団・班長） 谷内博則（山田分団・班長）
小林幸次（山田分団・班長） 山田久就（三波分団・班長）
西田 剛（高倉分団・団員） 小坂広一（松波分団・団員）
畑下大吾（秋吉分団・団員） 向 勇二（不動寺分団・団員）

能登町長表彰

団員感謝状

山本 勉（元能登町消防団・団長）
瀧平 武（元能登町消防団・副団長）
善野栄造（元能登町消防団・分団長）
前田長政（元能登町消防団・分団長）
川端正雄（元能登町消防団・班長）

能登町消防団長表彰

勤続功労章

今井耕太郎（高倉分団・団員） 川端政男（山田分団・団員）
小原信幸（山田分団・団員） 谷政祥悟（三波分団・団員）
小谷内 豊（上町分団・団員） 三矢啓洋（小木分団・団員）
林 生一郎（小木分団・団員） 藤原寿朗（小木分団・団員）
桜井秀斗（宇出津第1分団・団員） 中山優大（柳田分団・団員）
井田賢正（小間生分団・団員） 蔵上和宏（宇出津第2分団・団員）
小松昌伸（松波分団・団員）

その消防魂に
敬意と感謝を
込めて――。

能登で花巡りを

―能登花の寺心華会が発足―

宗派を超えた連携

平成21年4月24日、花の名所として知られる奥能登11寺院の住職らが平等寺に集まり『能登花の寺心華会』を発足させた。

「花の寺をネットワークとしてつなげたい」と上野さんが発起人となって呼び掛けた。設立総会では、会長に上野さん、事務局長に萬年寺（のとキリシマ寺）住職の久保献令さんⅡ七見Ⅱが選ばれ、パンフレットや看板を作ることなど、今後の活動方針が決められた。

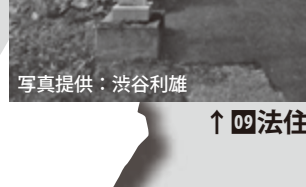
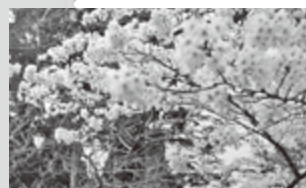
新たな能登半島巡りに

心華会は宗派を超えて各寺院が連携し、境内の花木や花を通じて地域の活性化につなげることを目的に掲げ、賛同する寺院を募っている（現在は12寺院が加入）。

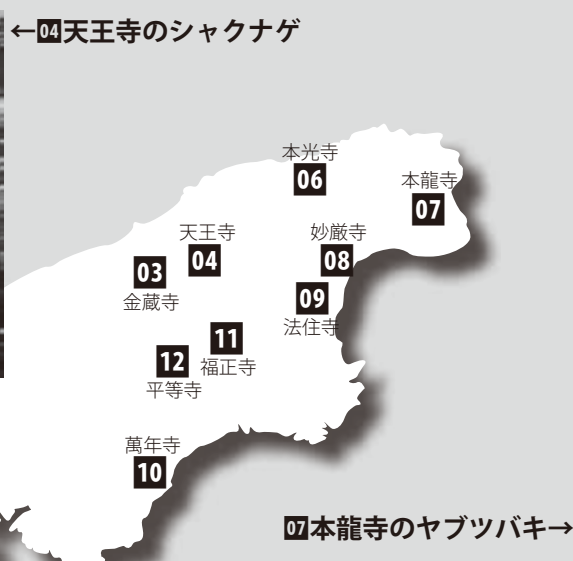
設立後、各寺院を巡ってみたという上野さん。「県内一のシダレザクラやヤブツバキなど、すばらしい花木がたくさんあった。今後は花の寺のネットワークを広げ、たくさんの観光客が能登半島を巡るようになってほしい」と新たな夢を馳せている。



←04天王寺のシャクナゲ



写真提供：渋谷利雄



写真提供：渋谷利雄

能登花の寺心華会（平成21年6月現在）

No.	寺院名	所在地	境内にある花木など
01	総持寺祖院	輪島市門前町門前	ハギ
02	仏照寺	〃 三井町興徳寺	シダレザクラ（県指定天然記念物）
03	金蔵寺	〃 町野町金蔵	サザンカ・のときリシマツツジ
04	天王寺	〃 町野町徳成谷内	シャクナゲ
05	来迎寺	穴水町大町	キクザクラ（県指定天然記念物）
06	本光寺	珠洲市馬縹町	ヤブツバキ
07	本龍寺	〃 三崎町宇治	ヤブツバキ（県内一の古木）紅梅
08	妙巖寺	〃 宝立町鶴飼	
09	法住寺	〃 宝立町春日野	サクラ
10	萬年寺	能登町七見	のとキリシマツツジ
11	福正寺	〃 合鹿	合鹿桜
12	平等寺	〃 寺分	アジサイ・サクラ・サルスベリ

顧問：渋谷利雄（写真家）、藤平朝雄（石川県広域観光連盟相談役）

05_ 第2線延長の合図を受け、ポンプ車へ全力疾走する2番員と3番員（宇出津第2分団）

06_ 4分団が一斉にスタートする小型ポンプ操法の部

07_ 水圧を細かく調整する4番員（松波分団）

08_ 消防訓練礼式にのっとり審査される小隊訓練（柳田分団）

09_ 近隣の消防団も研究に訪れる

06

07

08

09



■大会結果

総合の部

①柳田分団 ②松波分団 ③神野分団

ポンプ車操法の部

①三波分団 ②高倉分団 ③松波分団

小型ポンプ操法の部

①宇出津第1分団 ②松波分団 ③高倉分団

小隊訓練の部

①柳田分団 ②岩井戸分団 ③鶴川分団

ポンプ車操法の部で優勝した三波分団は、7月25日（土）に金沢市で開催される石川県消防操法大会に出場します

平 成の町火消し・消防団が
日ごろの訓練の成果を競う「能登町消防団訓練大会」が6月20日、宇出津新港で行われました。

「自分たちの町は自分たちで守る」という郷土愛の精神に支えられる消防団が、災害現場や火災現場で待ったなしの活動ができるのは日ごろの訓練があればこそです。その訓練は規律から操法技術まで1年を通して幅広く行われています。

今年で5回目を迎えたこの訓練大会には、能登町消防団16分団から約300人が参加。家族や仲間からの応援を受けながら、きびきびとした動きを見せていました。

02



04



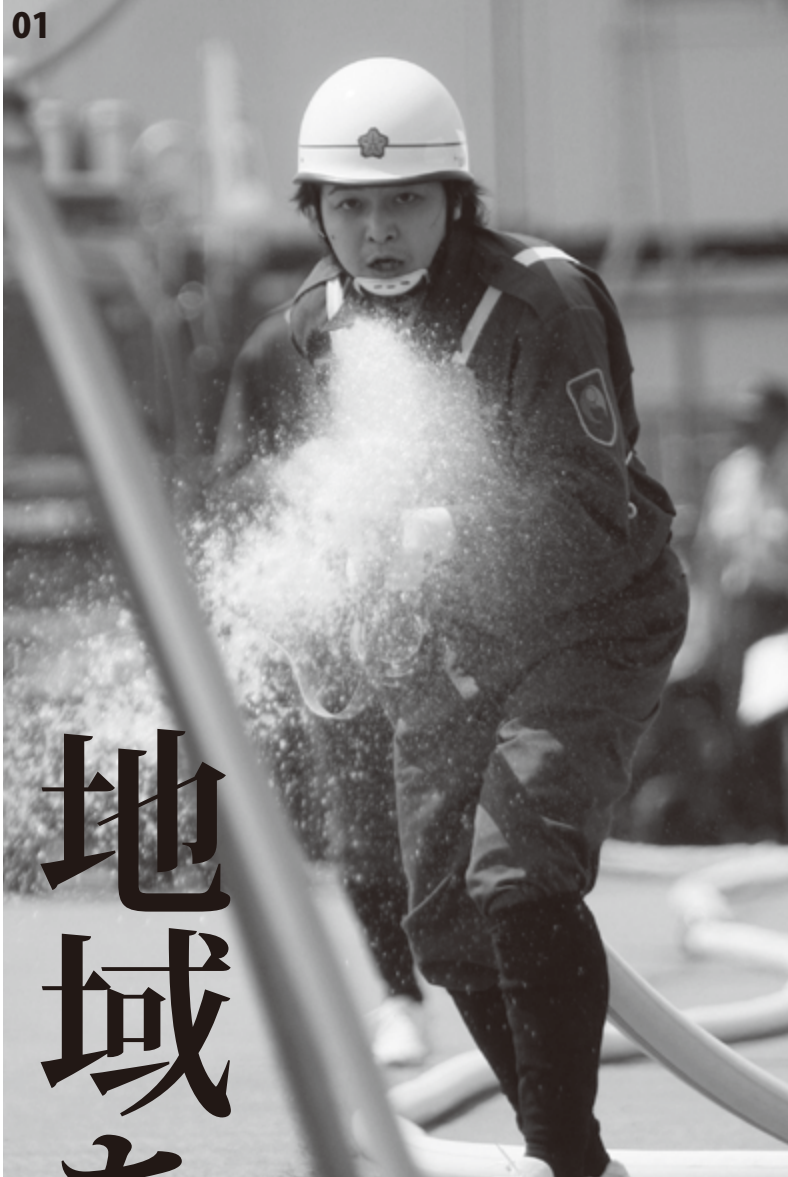
01_ 第2線を延長し火点めがけて放水する2番員（宇出津第1分団）

02_ 3番員、4番員が協力して吸水管を水利まで延ばす（三波分団）

03_ 第2線の第3ホースを持って火点へと走る2番員（小木分団）

04_ 「放水始め」「放水やめ」など3番員がポンプ車を操作する4番員に伝達する（秋吉分団）

01



03



地域を守る絆

キズナ



地域活性化・経済対策臨時交付金を受け、一般会計13億4900万円を補正

能登町議会第2回定例会が6月11日に招集されました。会期を19日までの9日間と定め、平成21年度一般会計補正予算や条例改正など、町長提出の報告5件、議案10件、諮問1件が上程されました。

持木町長が提案理由を述べたあと、人事案件である諮問1件を採決し、10人が議案について質問しました。そのあと、各議

案と請願2件、陳情1件が常任委員会に付託されました。

最終日の採決では、委員長報告を受けて議案10件はすべて原案のとおり可決され、請願1件、陳情1件が採択とされました。

続いて「能登町議会議員政治倫理条例の制定について」の議会議案が追加上程され、無記名投票の結果、可決されました。

■承認された報告（5件）

- ・平成20年度能登町一般会計繰越明許費繰越計算書について
- ・平成20年度能登町有線放送事業特別会計繰越明許費繰越計算書について
- ・平成20年度能登町観光施設特別会計繰越明許費繰越計算書について
- ・平成20年度能登町公共下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書について
- ・平成20年度能登町病院事業会計予算繰越計算書について

■可決した議案（10件）

- ・平成21年度能登町一般会計補正予算（第1号）▼歳入歳出それぞれ13億4900万2千円を追加し、予算総額を142億4400万2千円とする。国の補

正予算を受けた「地域活性化・公共投資臨時交付金」事業と「地域活性化・経済対策臨時交付金」事業の追加による。主な内容は下表のとおり。

- ・平成21年度能登町有線放送事業特別会計補正予算（第1号）▼歳入歳出それぞれ4700万円を追加。自主放送のデータ放送設備整備や編集機器の更新
- ・平成21年度能登町観光施設特別会計補正予算（第1号）▼歳入歳出それぞれ800万円を追加。国民宿舎うしつ荘の改修
- ・平成21年度能登町公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）▼歳入歳出それぞれ2447万9千円を追加。恋路、松波処理区の管渠整備など
- ・平成21年度能登町水道事業会計補正予算（第1号）▼資本的支出に700万円を追加。薬品

主な「地域活性化・経済危機対策臨時交付金」事業

事業名	事業費	主な項目
携帯電話不感地域解消事業	3億4928万円	6地区(本木・柿生・祖倉・北河内・小間生・桐畑)
土地改良事業	9998万円	農地・林道整備
町道整備事業	1億9505万円	町道整備
観光振興整備事業	3070万円	観光施設改修ほか
小中学校施設整備事業	2億 768万円	電子黒板・教育用パソコンの導入、学校補強工事
公立保育所改修事業	7814万円	ひばり保育所大規模修繕
スポーツ施設整備事業	4951万円	テニスコート一部張り替え(WAVEのと)
衛生施設整備事業	2360万円	柳田埋立処分場沈殿池補修

注入室の改修など

- ・能登町国民健康保険条例の一部を改正する条例について▼平成21年10月1日から23年3月31日までの出産育児一時金を4万円引き上げ39万円とする
- ・白丸コミュニティ施設条例の制定について
- ・能登町文化施設条例の一部を改正する条例について▼町立羽根万象美術館に併設して町立美術館を設置

- ・奥能登広域圏事務組合規約の変更について▼大規模・複雑化する災害に対応するため、消防本部組織を2課から3課制に強化する
- ・辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について▼移動

- ・国の教育予算を拡充することについて（請願）▼「教育予算の拡充を求める意見書」を議会で採決し、行政当局へ提出を求める
- ・旧能登線踏み切り拡張、舗装工事の施工について（陳情）▼

■採択された請願・陳情

- ・国の教育予算を拡充することについて（請願）▼「教育予算の拡充を求める意見書」を議会で採決し、行政当局へ提出を求める
- ・旧能登線踏み切り拡張、舗装工事の施工について（陳情）▼

■継続審査となった請願

- ・町道の認定及び舗装について▼河ヶ谷地内の町道1級九里川尻越坂1号線から分岐する道路の町道認定・整備の請願

■可決された議会議案

- ・能登町議会議員政治倫理条例の制定について▼町議会議員の責務、政治倫理基準、公共事業等の請負契約に対する遵守事項などのほか、審査請求や審査結果の措置などを定める

※投票結果…賛成10、反対9

山元淳二副町長が退任

6月19日の本会議終了後、6月23日をもって4年間の任期満了を迎える山元淳二副町長が退任のあいさつを行いました。

山元副町長は「旧町村の融和を心掛け、前向きに新能登町の業務に参画してきました。厳しい試練でもありましたが、終生忘れ得ない喜びです」と助役として就任してからの4年間を振り返りました。

6月23日には能都庁舎で退任式が行われ、持木町長から感謝状が手渡されました。山元副町長は「町のため、町民のために

町長を中心にがんばってください」と職員を激励しました。

退任式終了後、持木町長や職員に見送られ、庁舎を後にしました。



職員に見送られ庁舎を後にする山元副町長

—能登町町会区長会連合会—

永年在職者表彰式・総会

町会区長会連合会の永年在職者表彰式と総会が5月27日、役場能都庁舎で行われました。表彰式では長年にわたり町会長・区長を務めた12人が表彰を受けました。

表彰式に引き続き行われた総会では役員改選が報告され、新会長に川端登喜夫さん、また前会長の梶原征一郎さんが顧問となることなどが報告されたほか、20年度の事業・決算報告と21年度の事業計画・予算が審議されました。表彰者、新役員は次の皆さんです。（敬称略）



【5年表彰】

浅井義雄（桐畑）山下国昭（神道）坂上信彦（三田）畠中 弘（武連）木原義雄（鴨川）辻口重秋（矢波）山本登一（猪平）北井正昭（五十里）保田祐弘（宇加塚）

【10年表彰】

梶原征一郎（上長尾）上出八郎（四方山）

【15年表彰】

寺西喜久次（豊ヶ丘）



【新役員（任期は22年度までの2年間）】

会長：川端登喜夫（三番町）

副会長：上野耕平（高浜第2）吉田源兵衛（金山）

幹事：藤田憲治（平体）

会計：廣田良祐（鶴町）

会計監査：中榮義威（上町【柳田】）

道下 薫（第2八幡）

理事：背戸寛次（姫中組）辻口重秋（矢波）

刈崎昭平（本町【鶴川】）山下国昭（神道）

山本 勉（久田）久保笙元（北河内）森田

至彦（上出）山下秀朗（秋吉）上出八郎（四方山）

出島健二（山口）

真脇小学校ランプシェード作り 親子で縄文焼ランプシェード

真脇小学校の3年生から6年生までの28人が6月18日、家族と一緒に縄文焼ランプシェード作りに挑戦しました。

制作を指導する「のと縄文工房」は、数年前から縄文焼ランプシェードを生かした地域活性化に取り組んでいます。今年も恋路海岸などのイベントに出品するランプシェードの制作を、町内6つの小学校に出向いて指導しています。

児童たちは自分がイメージする形になるよう真剣な表情でろくろに向かい、粘土を積み上げていました。この日制作した作品は、野焼きなどを経て8月8日に恋路海岸で披露されます。



のと縄文工房のメンバーから指導を受ける親子

能登青翔高校「柳田フラワーロード計画」 生徒の手で花に包まれた町へ

「平成21年度高校生ボランティア講座」事業の取り組みの一つとして、青翔高校の生徒たちが地域への貢献を目指した「柳田フラワーロード計画」。この企画は5月下旬から全校生徒が授業などの機会を利用し、校内のハウスで苗作りしたものをプランターに植え、人々の心を和ませることが目的です。

6月23日には、全校生徒を代表して「農業クラブ評議委員」の6人が、自分たちが種から育てたマリーゴールドなどのプランターを、役場柳田庁舎や柳田体育館など柳田地区5カ所に設置しました。



自分たちが育てた花を設置する青翔高校の生徒

特徴あるブナの樹形を観察する参加者



歩こう歩こう鉢伏山 家族でブナ林の散策を楽しむ

岩井戸公民館と柳田小学校PTAが共催で行う「歩こう歩こう鉢伏山」が6月14日に行われ、保護者や児童など約150人が初夏の鉢伏山を歩きました。参加者は初めてブナ林に入る人も多く、さまざまな形のブナの木を観察したり、木に登って遊んだりブナ林散策を満喫していました。

町野川の水源地として、ブナ林をはじめ貴重な自然が残る鉢伏山は、森林浴の森100選にも選ばれています。参加者の一人は「この大切な自然を町全体の宝物として、保護・活用していく仕組みづくりが必要」と訴えていました。

バケツをゆっくりと海水につけ、声を掛けながら放流しました



松波小学校・ヒラメ稚魚飼育、放流 大切に育てたヒラメを海へ放つ

水産業の担い手である小学生の自然学習の一環として、水産総合センターで生産しているヒラメを飼育・放流する栽培漁業ミニ体験教室が、松波小学校5年生を対象に行われました。

5年生25人は、6月1日に届いたヒラメの稚魚200匹を10日間飼育し、6月12日に空林地区の海岸へ放流に向かいました。海岸に集まった児童たちは「エサやりは大変だったけど、慣れてきたら楽しかった」「離れるのは寂しい」などと感想を話し、1匹も死なせることなく大切に育てた稚魚を、優しく海へ放流しました。

イカ釣り船団出港 大漁と安全の祈りを込めて

▶体験乗船などでお世話になった「第68徳洋丸」を見送る小木小学校児童

▼見送る人たちに手を振る乗組員（第68日章丸）



6月上旬、能登町の基幹産業である「冷凍スルメイカ漁」の中型イカ釣り船団が出港しました。冷凍スルメイカの水揚げ日本海側最大を誇る小木港では、6月2日と5日にかけて出港しました。港には家族や友人、地元小木小学校児童や小木保育園園児などが見送りに駆けつけ、船に結びつけた色とりどりの紙テープを持って、大漁と安全を祈っていました。

能登町のイカ釣り船は、小木19隻、姫5隻、宇出津が1隻の合計25隻です。最新鋭の設備を搭載した船とその技術の高さで、1隻あたりの水揚げは日本一といわれています。

ふるさと大使任命式 ふるさと能登町を県内外に発信

能登町ふるさと大使の任命式が5月25日、能都庁舎で行われ、抒情書家の室谷文音さんとグラウンドゴルフチーム「能登町スターズ」が新たに任命されました。

室谷さんは現在、能登町と英国ロンドンで創作活動を行い、英国でも能登をテーマにした個展を開くなど海外で能登の魅力を発信しています。能登町スターズは年10回以上の遠征を計画。町の観光パンフレットなどを配布して町のPR活動を行います。委嘱状を受けた室谷さんは「一人でも多くの人に能登の良さを知ってもらえるよう努めたい」とあいさつしました。



写真家・梅佳代さんに続く2代目のふるさと大使

バケツでアユを放流する組合員＝重年地内で



町野川アユの放流 アユが住めるきれいな町野川に

河川漁業協同組合が毎年実施しているアユの放流が、6月10日に町野川で行われました。

町野川の環境保全や魚の保護を目的に実施されるこの放流事業。今年は6人の組合員が、体長5—6センチ、約1万匹のアユを柳田地区の5カ所で放流しました。

石川県では6月16日にアユ釣りが解禁されました。組合員の一人は「川の中の石がコケも生えずにきれいに保たれているのはアユがいるからです。釣りをする場合もゴミを持ち帰るなどマナーを守ってほしい」と話していました。